

初夏のクマに注意！

○ クマの行動範囲が広がり、集落での目撃が増えてくる時期です

生ごみ等、人には利用価値がないものもクマにとっては、栄養価の高い食べ物です。

集落に引き寄せる原因にもつながりますので、長時間屋外に放置しない様にしましょう。

(クマの誘引物 生ごみ、残飯、廃油、油性塗料、燃料など)

○ 山菜採りは周囲の確認をしながら

・クマは草や木の芽を好んで食べるため、山菜採りで遭遇する可能性があります。山菜採りに熱中するあまり周辺への注意力が散漫にならないよう注意が必要です。

・特にネマガリタケの採取は見通しが悪い状況となり、クマとばったり遭遇する危険があります。クマ鈴やラジオを過信せず、複数人で行動するなど周囲に十分気をつけましょう。

○ 親子グマに注意を

母クマは、子グマを1～2頭連れている可能性があり、子グマを守るために、神経質になっています。母クマの姿が見えなくても、そばにいる可能性が高いため、近寄ることは大変危険です。

クマと遭遇しないよう下記のことにご注意してください。

◇ 朝夕の行動は避ける

朝夕はクマが活発に活動します。この時間帯に山中に入ることは避けましょう。

◇ 周囲の確認をする

山菜(ネマガリタケ含む)はクマの好物です。山菜のある場所には、クマもいる可能性があります。

特に溪流沿いは、水の音でクマも人もお互いの気配を感じず接近してしまうことがありますので注意が必要です。(釣りをを行う際は特に注意しましょう)

◇ クマのいる場所に近づかない

山中はクマの生息地で、どこにいてもおかしくありません。クマの足跡や糞などを見つけたら、それ以上近づかずに引き返しましょう。

◇ 笛、ラジオ、鈴の携帯を

クマは聴覚や嗅覚が人より優れています。人の気配を感じたクマは自ら避けてくれます。

笛、ラジオ、クマ避け鈴など音の出る物を携帯しましょう。

◇ 子グマを見たら立ち去る

子グマの近くには必ず母クマがいます。母クマは子グマを守るために、人へ攻撃することがあります。子グマを見かけたら、そのままそっと立ち去りましょう。

◇ 犬は連れて行かない

人の気配を感じたクマは、身を隠して人をやり過ごそうとしますが、一緒にいる犬に吠えられるなどして驚いたクマが、人へ攻撃をする場合があります。犬を連れて山中へ入るのはやめましょう。

◇ 不意の遭遇に備えて

注意をしてもクマと遭遇してしまった場合、ヘルメットを着用していると頭部の被害を軽減できます。